

発行日 平成29年12月22日
発行者 釜利谷中学校PTA実行委員
PTA会長 長谷川 佳子
校長 栗田 智則



PTAだより 第4号

心せわしい年の暮れ、いかがお過ごしでしょうか。
いつもPTA活動にご協力いただき、ありがとうございます。

実行委員会活動報告

- 10/28 釜利谷地区社明大会
- 11/ 8 市P理事会
- 15 区P運営委員会
- 22 区P連全体研修会
- 29 第7回実行委員会
学校懇話会
- 12/ 2 おやじの会『餅つき&
3 焼き芋』お手伝い
- 20 釜中フロック PTA 交流会
(釜利谷中・六浦小・釜利谷
小・釜利谷南小・高舟台小)

釜利谷地区社明大会(社会を明るくする運動)ご報告

10月28日(土)釜利谷地区社明大会に参加してきました。

講師は、鍋倉 早百合 氏

1. 子育てをめぐる環境
2. 子育て危機の象徴
3. 子どもの変化
4. 思春期に行き詰まる子ども
5. 子育てを見直す

以上の構成での講演会でした。

「人間の豊かな心の形成には母性(無条件で相手を承認する力)的な関わりが基盤になる。」

ということを実際に起こった少年事件などを例に話していただきました。



話を聞きながら、自分の子育てを省みる時間となりました。



H29
金沢区PTA連絡協議会
全体研修会
『命の授業』
ご報告

11月22日(水) 金沢区PTA連絡協議会全体研修会が行われました。役員、委員、計24名で参加してきました。
講師は、豊島勝昭(とよしま かつあき)医師、神奈川県立こども医療センター 新生児科部長による『命の授業』講演。
24時間365日体制の新生児集中治療室(NICU)でスタッフとともに、妊娠・出産時のトラブルや早産により緊急医療を必要とする新生児の診察に取り組んでいます。ドラマ『ユウノドリ』の監修も行っています。

裏面につづく



『命の授業』メモ

- ◇ 病氣や病氣になる赤ちゃんが生まれてくるかも？って言われたら？
- ◇ 赤ちゃんは死んでしまうかも・・・助かっても障害を持つかも。
- ◇ 400gで生まれた赤ちゃん・・・想像以上に小さい。
- ◇ 初めてのNICU面会・・・握り返す小さな手に気持ちは湧いてくるもの。(助かって良かった)
- ◇ NICUでは、1割の赤ちゃんが亡くなる。〈当たり前〉のことなんて一つもないのかもしれない。
- ◇ 1,000g以下の未熟児は体温調節がきかない。人工的に温度や湿度を管理する必要がある。
- ◇ 横浜NICUには、年間300人運び込まれる。
- ◇ ベッド不足・・・1台 2千万円。NICU年間70件断っている。

- ◇ 21トリソミー(ダウン症候群) 半分くらいは心臓に疾患。
800人に1人生まれる。やさしく、のんびり屋さんの赤ちゃんたち。みんなで優しくしてあげたい赤ちゃん。
- ◇ ダウン症を受け入れられない家族。知っている病名で差別や区別をつけられやすい。
- ◇ 自分の子どもがダウン症だと嫌だと思ってしまった。障害と向き合う家族。
- ◇ 病氣がないと幸せ？病氣があると不幸？
- ◇ 幸せは人と比べてではない。

- ◇ NICUに入院する理由
 - 1 早産の赤ちゃん(低出生体重児)
 - 2 生まれつき病氣の赤ちゃん
 - 3 お産で調子の悪くなった赤ちゃん
- ◇ 33人に1人はNICUに入院。
- ◇ 「誰にとっても未来の家族の姿かもしれません。」
- ◇ 「自分だったらと想像しながら心寄せて下されば。」
- ◇ 退院後「これからが大変だけど、まずは良かった」・・・スタッフ共通の思い。
- ◇ NICU卒業のカタチ
 - 1 後遺症なき生存
 - 2 死亡
 - 3 病氣や障害と共に生きていく
- ◇ 障害・・・社会の中で生きづらさ。子どもたちやご家族が〈生きづらさ〉を感じずに生活が出来るために少しでも合併症を少なく救いたい。
- ◇ 周囲に向き合って障害と感じているか。病氣や重症度と〈障害感〉は必ずしも同じではない。
- ◇ 障害とは私たち自身かもしれない。

街中で障害を持つ子どもに会っても避けたりせずに、声掛けはなかなか難しいが、さり気なく寄り添ってほしい。ハンディをそれぞれの個性・特性と考えてほしいとも仰っていました。私たち自身が障害とならないよう理解していけたらと思います。

お忙しい中ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。